

COLUMN —コラム—

「雨降って地固まる？」

“雨降って地固まる”とは言いますが、「今の酪農情勢では、雨が上がる前に地崩れを起こすぞ!」と、何人かの酪農家に言われました。飼料高騰や生乳需給の緩和がいつ終息するのか見通せず、未曾有の切迫した状況に陥っているのだと受け止めています。

でも、経営を続ける上では、雨が上がるのを待つだけではなく、その間に工夫を重ねたからこそ“地が固まる”のも事実です。いつもだったら手を付けないようなことも周囲の力を借りながら進めてみるのも一策です。

私は、生乳の売上高だけで全ての経費を補えるのが酪農経営の理想の形だと思っています。皆さん、何割の酪農家がこの状態を実現していると思いますか？我々が集約しているデータでは、生乳売上高だけで成り立っている酪農経営の割合は約2割しかありませんでした。この割合はこの十数年変わらなかったのですが、なんと令和3年の集計結果では、約1割と半減してしまいました。このたびの飼料高騰のインパクトの大きさを実感しています。

せつかくですので、この1割の方々の酪農経営の特徴を紹介しておきたいと思います。共通点は、当然ながら乳飼比が低いことです。都府県の平均が57%のところ、彼等の平均は48%でした。ただし、乳飼比の低さのパターンには2つありました。まずは、「小規模・完全自給粗飼料型」です。20頭前後の規模で個体乳量も8,000kg程度なのですが、小規模のメリットを活かして粗飼料を完全自給しているタイプ、2つ目は「高泌乳・自給粗飼料積極利用型」です。10,000kg以上の牛群で自給粗飼料を多用しています。経営規模は40～70頭程度が多いです。

こう見ると、自給粗飼料は酪農経営の基盤であることが分かりますが、なんと私が見てきた中で、全国で1戸だけ、オール購入粗飼料でありながら生乳の売上高だけで全ての費用を補っている経営がありました。乳飼比は65%と高いのですが、設備投資が少ないため、減価償却費が平均の

1/3程度、また、牛の疾病が少なく診療衛生費と共済掛金の合計が平均の1/5程度しか掛かっていないのが経営の肝となっています。

この経営が恵まれているのは、周辺に畑作農家が多く、糞尿処理に困っていないという点です。自分の牧場の弱みと強みを見極め、飼料費の高さを低投資と低疾病で克服するという経営スタイルを確立したのです。ただし、このオール購入粗飼料の酪農家も令和4年に入ってから飼料高騰に対しては限界を感じており、自給飼料の委託生産や河川敷の利用の検討を始めています。結局は、飼料も牛も「自給」に戻ってくるということ、そして、臨機応変に対策を考えられる「知恵」は財産だと言えるでしょう。

最後に、この厳しい環境だからこそ、皆さんにお勧めしたいことがあります。それは、今の状況に対して、どう感じ、どのような行動をとり、その結果どうなったかを記録することです。行動を起こすきっかけになりますし、経営が良くなった時、また、次に厳しい環境になった時に最高の判断材料になります。このことが“地を固める”ための第一歩になるはずです。



全国酪農業協同組合連合会
総合企画室長 丹戸 靖氏

経歴

たんど やすし
丹戸 靖氏

全国酪農業協同組合連合会 総合企画室長

昭和45年島根県生まれ、明治大学大学院修士修了（農業会計学）。

平成6年全酪連入会后、鹿島飼料工場、福岡支所購買推進課、本所酪農生産指導室を経て、2018年より現職。2005年博士（農学）取得。

これまでの業務の中で、酪農家の経営管理、経営継承のフォローを行うとともに、集積したデータを活用した情報発信を行ってきた。

発情発見から始まる繁殖管理

生産本部指導部技術課 倉田 稔弘

母牛が妊娠して子牛を産む。これが繁殖であり、酪農では乳生産を行うために絶対に必要です。そして、母牛を妊娠させることが繁殖管理ですが妊娠させることは簡単ではありません。卵巣や子宮機能だけでなく、これらを支配する脳、卵巣機能を支える肝臓も正常に機能しなければなりません。また、脳や肝臓機能は栄養状態や健康状態が影響し、明瞭な発情行動を示すには四肢も健康でなければなりません。

さらに、発情行動は人が発見しなければならず、適切な人工授精の実施も必須です。このように、妊娠させるためには極めて多くのハードルが存在し、このことが簡単に妊娠させられない要因となっています。このため、卵巣機能を高めるホルモン剤、栄養状態を改善するサプリメントが開発されています。しかし、これらはあくまで妊娠しやすい体質の牛を増やすだけで、妊娠する機会を保障するものではありません。

妊娠の機会を得るためには、人工授精が必須です。そして、発情を発見しなければなりません。この発情を発見することこそが、最も優先順位が高い繁殖管理です。

しかし、近年、世界的に乳牛の発情発見が難しくなっていることが報告されており、これは日本においても実感されていることです。

発情発見が難しくなっている原因には牛を管理する人側の要因と牛側の要因があります。人側の要因としては、規模拡大により目が行き届きにくくなっていることが考えられます。牛側の要因としては第一に発情時間の短縮が挙げられます。近年ではスタンディングを示す時間は8時間前後であることが明らかにされています。

スタンディングを発情の一次的兆候とすると、落ち着きがなくなる、他の牛の陰部のにおいを嗅ぐ、フレーメン（上唇を開き、鼻を突きだしてに

おいを嗅ぐ行動）を示す、他の牛を追いかける、他の牛の背に顎を乗せる、他の牛に乗駕する、陰唇が腫脹し弛緩する、陰部から透明粘液が流下する、食欲や乳量が減少する、大きな声で鳴くなどは発情の二次的兆候です。

発情発見が困難になってきているのは発情時間が短くなったことだけではなく、これらの二次的兆候が弱くなってきていることも大きな原因です。発情持続時間が短縮したり、発情兆候が弱くなったりする最も大きな原因の一つとして泌乳量の増加が挙げられます。発情兆候は卵巣から分泌されるエストロゲンというホルモンによって引き起こされます。高泌乳牛は採食量が多いため、消化管を循環し肝臓に向かう血液の量が多くなり、多くのエストロゲンが肝臓で分解されてしまいます。また、高泌乳牛は泌乳量最盛期には大きな負のエネルギーバランスに陥りますが、この状態では卵巣でのエストロゲン産生が減少します。このようにエストロゲン産生が減少し、分解が早まる結果、高泌乳牛では血中エストロゲン濃度が低くなってしまいます。

目視によりスタンディングを発見する方法は正確に発情を発見することができますが、発見できる割合は高くありません。一方、二次的な発情兆候はスタンディングが始まる12時間前から徐々に増加し、特に1～3時間前に最も多くなり、その後スタンディングが出現します。従ってスタンディングと二次的な発情兆候の発見を併用することにより発情発見率と精度は高まります。

しかし、これらは牛をじっくり観察しなければ発見できません。発情発見に十分時間を取り、牛の行動を観察する目を養うことが発情発見には最も重要ということを再認識して頂き、その目を養い繁殖管理の向上に努めましょう。

NOSAI熊本からのお知らせ

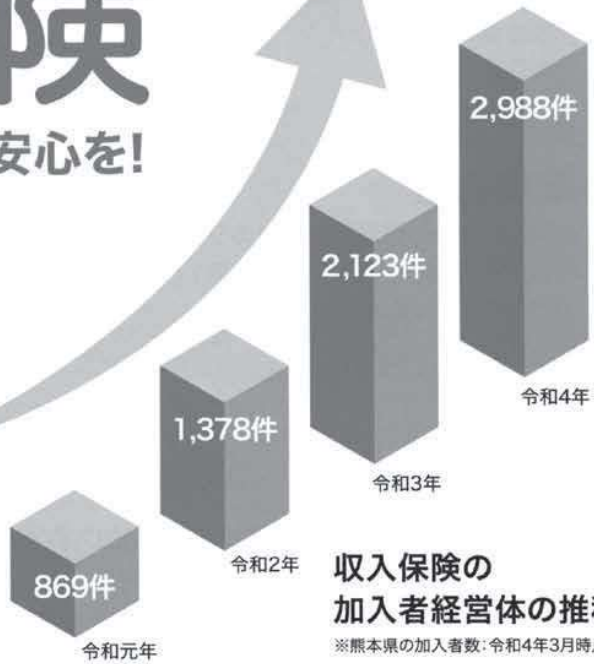
農業者の皆さまへ 入っていますか？ 収入保険

収入減少に備え、経営に安心を！



いざという時
安心だね。

加入する人、
増えています!!



収入保険の
加入者経営体の推移

※熊本県の加入者数：令和4年3月時点

さまざまな リスクに対応！

価格低下、病気・怪我、自然災害、
需要低下、新型コロナ。
経営努力では避けられない
収入減少をカバー！

平年収入の 9割を下回ったら補償！

保険方式と
積み立て方式の組み合わせで、
平均収入の8割以上を確保！

困ったときは 「つなぎ資金貸付け」が あります！

収入減少で
経営に困ったときに、
無利子で貸付け可能！

収入保険って？

青色申告を行っている農業者（個人・法人）が加入できます。

新たな品目への挑戦や、販路の開拓など、意欲ある農家の取り組みもサポートします！

入ってて助かった…



保険金の支払い実績

熊本県では、令和2年に加入した3人に1人以上へ保険金をお支払いしています！

	契約数	支払件数	支払金額
全国	36,142件	13,566件	約346億9千万円
熊本県	1,378件	552件	12億5百万円

熊本県
からの
お知らせ

収入保険加入緊急支援事業

収入保険加入者への保険料補助を今年も実施します！

① 新規加入者 (令和4年度の新規加入者)

加入者負担保険料の1/3を助成(上限6万円)



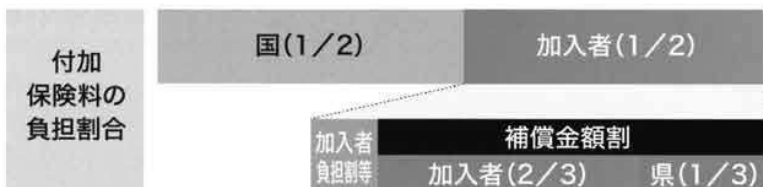
② 既加入者

保険適用に伴う保険料増加分のうち、
加入者負担額の1/3を助成(上限1万円)



③ 集団加入者 (農業共済組合と集団加入協定締結・5人以上)

付加保険料※の1/3を助成(上限1.2万円)



※割引の対象となる付加保険料の額は、加入申し込み時に算定した付加保険料の額から加入者負担割合を除いた額(補償金額割)となります。

保険料の

1

3

県が支援!

お問合せ先

詳しくは最寄りのNOSAIへ!

収入保険や収入保険加入緊急支援事業についてのお問い合わせは、こちらまで

熊本市支所	TEL.096-329-5211	宇城支所	TEL.0964-32-3511
(植木出張所)	TEL.096-273-1913	鹿本支所	TEL.0968-43-2357
玉名支所	TEL.0968-72-4181	阿蘇支所	TEL.0967-32-0347
菊池支所	TEL.0968-37-3000	(北部出張所)	TEL.0967-46-3488
上益城支所	TEL.096-282-6565	(南部出張所)	TEL.0967-62-9144
(山都出張所)	TEL.0967-72-4222	八代・芦北支所	TEL.0965-32-4111
球磨支所	TEL.0966-45-0531	(芦北出張所)	TEL.0966-82-5577
(下球磨出張所)	TEL.0966-22-5104	天草支所	TEL.0969-22-5444



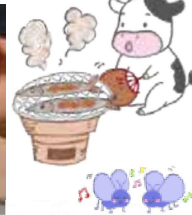
10月は、五木村フェア
限定メニューもあります。



感染症対策として入口にアルコール消毒の設置をはじめ、お食事以外時のマスクの着用、お料理をとる際の手袋の着用、テーブルの配置、お席の間隔をあけてのご案内、飛沫防止の為、飛沫シートの設置、トングのこまめな交換を実施しております。



「サツマイモ・里芋収穫体験」
10月初旬～無くなり次第終了
開催日/土日祝
受付時間/11:00～16:00
体験料金/1袋(約4～5kg)1,000円



阿蘇郡西原村河原3944-1 TEL096-292-2100 入場料:お一人 400円(3歳以上) 営業時間/10:00～17:00 休業日/11月末まで無休